



国際医療リスクマネジメント学会  
世界健康リスクマネジメントセンター

医療安全講習会 主催者の挨拶

医療安全と臨床コミュニケーション実習研修 2014 冬季

(医療安全とリスクコミュニケーション - 第6回)  
コミュニケーション・エラーを防ぐ能力開発

この度「医療安全と臨床コミュニケーション」と題する3日間にわたる小グループ実習による社会人教育プログラムを開催する運びとなりました。

リスクと情報には大変深く複雑な関係が介在しています。この密接な関係を検討する過程の中で、日米英の医療訴訟に共通してそれらの根本原因の7割が医療従事者と患者・遺族のミスコミュニケーションであるという衝撃的に調査報告が見出されました。臨床現場での適切なコミュニケーションが全国の医療機関で必要です。

患者のニーズに対応し、かつリスクコミュニケーションの成功と失敗の事例に関して、合理的に収集、整理、共有するにはどのような点に配慮を検討する必要がありますでしょうか。患者は病を抱えた不安定な状態であり、合理的判断が不可能なことも多いものですが、医療者にも、時間的切迫、人員不足による疲弊やストレス、権威勾配による遠慮や抵抗などがあり、適切で合理的なコミュニケーションができない状況が存在します。医療現場でのリスクを軽減させるためには、上に挙げた様々な場面での当事者の(主観的な、時には十分には意識できない領域も含めて)言動を分析して、コミュニケーションのズレを埋めるための方策が必要です。

これら難問に答えるために、国際医療リスクマネジメント学会が2006年12月に日本で開催した医療安全教育セミナーを出発点として、医療安全とリスクコミュニケーションの様々な話題について多数の講師陣により講義ないし小実習をいただけてきました。

以上の経過を踏まえて、今年度より3日間にわたって「医療安全と臨床コミュニケーション」に関する講義とグループ実習に関する本格的な研修会を開催し、現場での臨床コミュニケーションを大幅にスキルアップすることとなりました。

今年度のプログラムでは、本分野において日本を代表する先生方を一同に会し、臨床コミュニケーション・ミスに関する膨大な臨床講義がなされます。

講義に加えて、臨床現場での事例を基にロールプレイやワークも取り入れて体験的に臨床コミュニケーションの幾つかの方法について学習します。医療を提供する医療従事者の安定を図るストレスコントロールスキルの習得も目指します。今回取り上げる技術の中で、医療安全分野における交流分析法の導入は世界初です。

日本を最も代表する医療安全分野における臨床コミュニケーションの諸先生による最先端科学・技術によって、患者の安全を守ることが求められる臨床現場における、非合理的なコミュニケーションによる事故や否定的感情の抑圧や訴訟が軽減されます。

世界初の本格的な臨床コミュニケーション実習研修会により、あなたの医療機関の安全文化が更に向上します。

2013年10月

国際医療リスクマネジメント学会理事長・日本医療安全学会理事長 酒井 亮二

日本医療安全学会理事 荒木 登茂子

主催者一同